

令和4年度

上勝小学校 「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 児童の興味・関心に基づいた課題設定により、主体性を高める授業の実践
- 考えを交流して、自分の考えを広げたり、深めたりする授業の実践

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員
古田 有美	校長:寺井 孝文 指導教諭:古田 有美 教頭:亦川 隆雄 研修主任:渡邊 美記

校長

寺井 孝文

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

○次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○まじめに学習に取り組み、漢字の読みや基礎的な計算力が定着しつつある。 ●文章を正確に読み取ったり、身につけた知識等を関連付けたりすることに個人差がある。	・問いの意図を正しく理解することができる。 ・習得した知識や技能を他の学習や生活の場面において活用することができる。	・問題提起の部分や重要な部分などをアンダーラインや丸で囲ませる。 ・児童が興味を持って学習に取り組めたり、既習内容を思い出させたりする発問を考える。	・朝活で初見の問題を解いたり、帰りの会の後、補充プリントをしたりする。 ・問題を図や絵に表してイメージ化できるようにする。	・問題文の読み取りが苦手な児童も自分で図や絵に表して理解を深めようとしている。 ・長文については正しく読み取れていない児童が若干いる。	・読書量を増やし、活字に関わる時間を増やし、活字への抵抗を減らしていく。 ・引き続き、アンダーラインの効果的な弾き方など、文や話の要点を押さえる技能を伸ばす。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○自分の考えを様々な方法で発表できる児童が多い。 ●課題に応じた情報を取捨選択し、友達の意見を聞いて新しい考えを創造したり、自分の考えを簡潔に表現したりすることに課題がある。	・各授業において課題等に対して、話し合い活動等を通して、解決する方法を考えることができる。 ・目的に応じて、自分の考えをまとめたり、表現上の工夫をしたりすることができる。	・ホワイトボードやICTを効果的に活用した発表や話し合い活動をさせる。 ・自他の考えを伝え合う時間を設け、考えを広げたり、深めたりできるようにする。	・考えを言葉にしたり、文章化したりして伝え、他の児童に問い返して考えを深められるようにする。	・自分の考えを発表するだけでなく、内容について質問するなどして、深めることができた。 ・タブレットを活用することによって、指したり、書き足したりして表現の幅が広がった。	・思考を言語化させたり、可視化させたりするためのツールをいくつか使えるようにし、内容に応じて自分で選んで発表できるようにする。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○各授業や与えられた課題に一生懸命取り組むことができる児童が多い。 ●学習したことを自分の生活に生かしたり、自分の考えを他者へ伝えたりすることに課題がある。	・各教科の学習に主体的に取り組むことができる。 ・自分の学習の状況をしっかりと振り返ることができる。	・日常生活に関連した問題を解決する活動を軸とした学習活動を設定する。 ・考えをまとめるときに、児童に視点を示し、記述させる。 ・ペア学習やグループ学習の機会を効果的に設定する。	・学習活動の中に実体験を交えたり、スモールステップで成功体験を積み重ねたりして自信につなげ、主体的に学習に取り組めるようにする。	・日常生活に関連したものをを用いることによって、学習に主体的に取り組むことができた。	・振り返りを「楽しい」だけで終わらせず、次の学習へ生かせるよう、より、深い学びになるよう取り組む。

令和4年度 学力向上ロードマップ

